



2024年3月期 決算説明資料

東証スタンダード:2323

2024年5月15日

- 1 2024年3月期 通期業績**
 - 1 決算ハイライト
 - 2 業績サマリー
 - 3 貸借対照表
 - 4 減損並びに税効果会計について
- 2 2025年3月期 業績予想**
 - 1 業績予想
 - 2 業績推移
- 3 新中期経営計画進捗について**
- 4 会社情報**

決算ハイライト

TOB実施後の経営構造改革により 売上・利益共に大幅伸張

売上高 699 百万円 前期比 109%	EBITDA 121 百万円 YoY 143%	営業利益 74 百万円 YoY 172%
経常利益 92 百万円 YoY 219%	当期純利益 68 百万円 YoY 170%	

業績サマリ

- SMS事業とソフトウェア開発事業で売上高が増加、販管費を抑制し、営業利益、経常利益共に前期比で増加
- 資本効率を示す指標ROEは11.7%となり、前期から向上しています

(単位:百万円)	23年3月期 連結実績	24年3月期 単体実績	前期比
売上高	638	699	109%
売上総利益	394	407	103%
販売管理費	351	332	94%
EBITDA	82	121	147%
営業利益	43	74	172%
経常利益	42	92	219%
当期純利益	40	68	170%
ROE	7.0%	11.7%	

貸借対照表

(単位:百万円)	23年3月期 連結実績	24年3月期 単体実績	前期末対比
流動資産	737	813	110%
固定資産	294	194	65%
総資産	1031	1,008	97%
流動負債	272	180	66%
固定負債	165	205	124%
負債合計	438	386	88%
純資産	593	621	104%
自己資本比率	57.5%	61.3%	
1株あたり純資産	177円84銭	185円24銭	

減損損失及び税効果会計について

1

SMS事業における特別損失の発生状況

- 2022年11月に取得したSMS送信事業に関連するのれんの減損損失となります。
- 譲り受けた顧客の中の重要顧客(大量にSMSを送信していた顧客)が2025年3月期以降、大量送信を控える方針であることが判明したため。
- 譲り受けたSMS送信事業の将来の収益性について再評価し、期末時点ののれんの残高との差額91百万円を減損損失として計上いたしました。

2

特殊要因並びに税効果会計について

- 2023年4月に子会社株式会社FunFusionを吸収合併した際に、合併差益42百万円を特別利益として計上しています。
- 2023年7月に保険金受取による20百万円を営業外収益として計上しています。
- 赤字体質から脱却し、今後は継続的に利益を計上できると考えられることから、期末に法人税等調整額(△は益)を△27百万円計上しています。

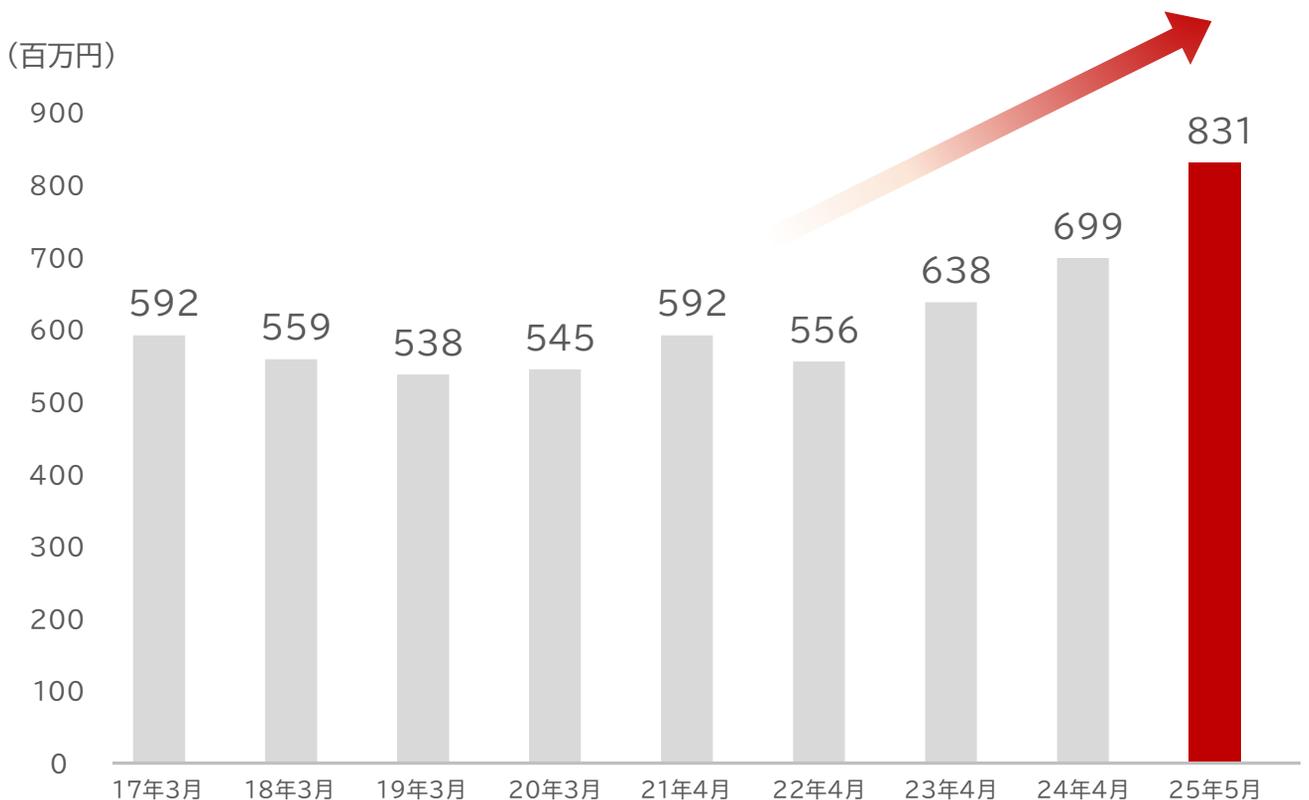
業績予想サマリ

経営体制変更後、初めての通期経営
プロジェクトフェニックスの達成に向けた
事業基盤構築フェーズ

(単位:百万円)	24年3月期 単体実績	25年3月期 業績予想	予想対比
売上高	699	831	118%
営業利益	74	80	108%
経常利益	92	80	86%
当期純利益	68	80	117%
ROE	11.7%	12%	

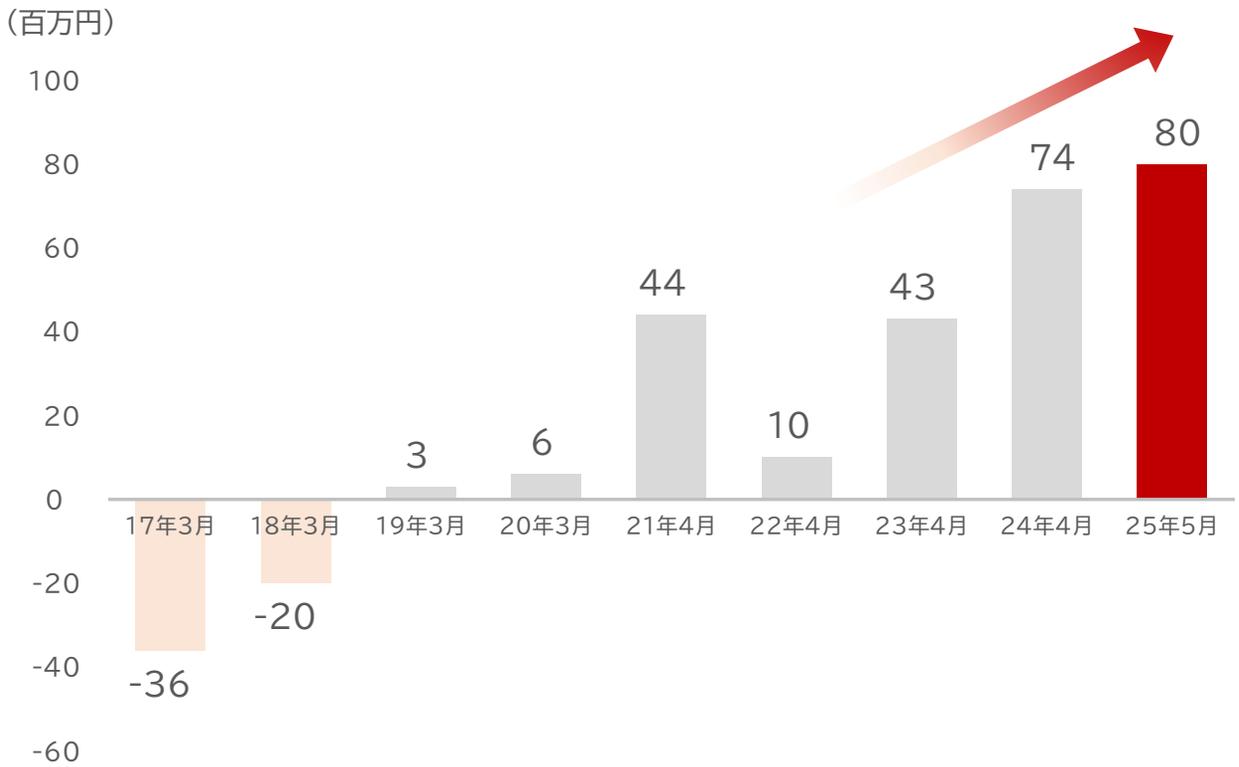
業績予想(売上高)

- クラウドソリューション事業におけるリモートメールの利用者減少やSMS事業の競合他社との単価競争激化も見込まれますが 当社は事業改革の推進とDXソリューション事業の拡販を通じて売上高、営業利益ともに着実な成長を予測しております



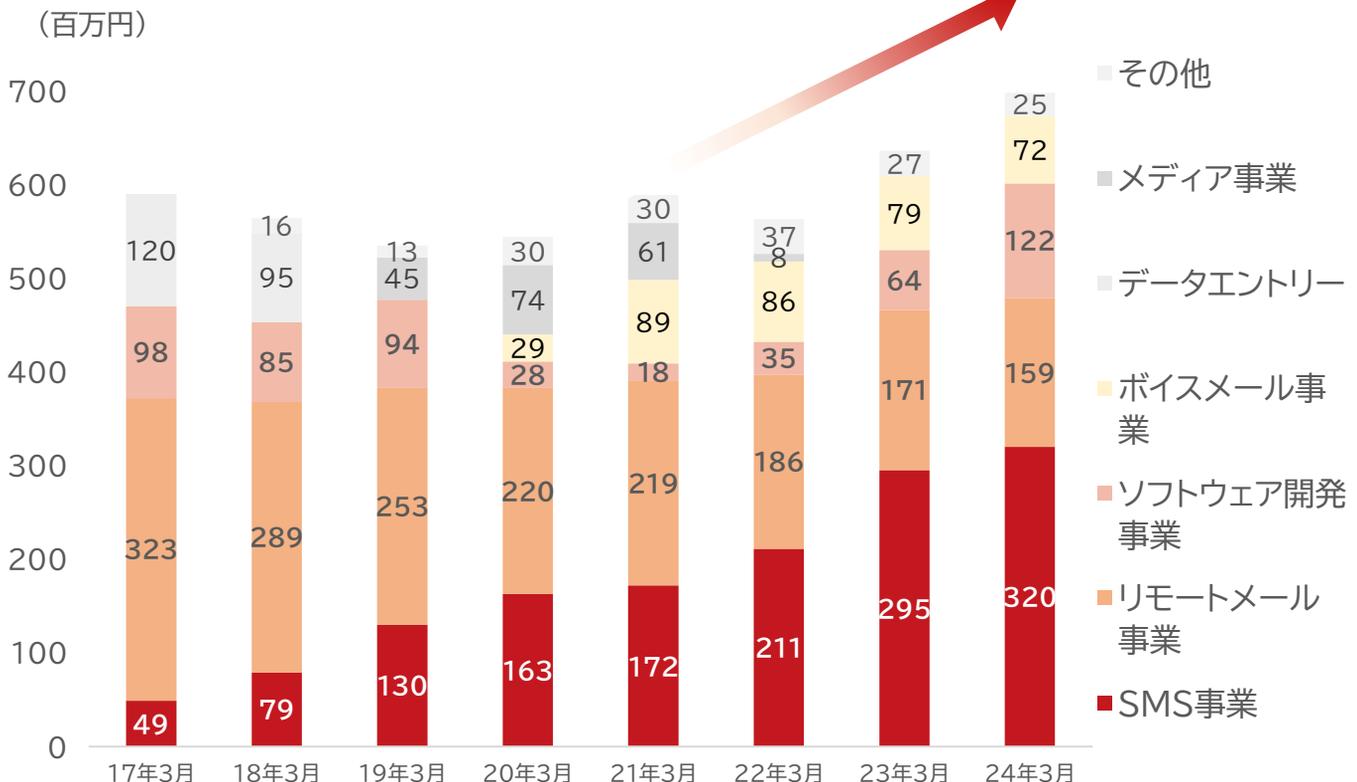
業績予想(営業利益)

営業利益推移



事業別売上高構成の推移

- SMS事業の伸長でリモートメール事業の売上減少を下支えし、さらにソフトウェア開発事業で売上高を積み増しました。
- 積極的なM&Aを積み重ね、クラウド・DXソリューション全体に波及効果をもたらし事業全体を活性化させます。



新中期経営計画の進捗

新中期経営計画 「プロジェクトフェニックス」の目標

事業・投資

新規の中核事業の創出

連結売上 20億円
EBITDA 4億円

組織

エンジニア数

100人

財務

時価総額

時価総額 100億円

新中期経営計画の達成イメージ

既存事業の安定成長と
M&Aによる非連続的な成長を実現

2026年3月
数値目標

連結売上 20.0 億円
EBITDA 4.0 億円

連結売上 20 億円

- 既存事業(SMS・リモートソリューション事業等)
- DX(ソフトウェア開発)事業
- M&A

2022年3月期

2023年3月期

2024年3月期

2025年3月期

2026年3月期

プロジェクト進捗報告

戦略	進捗状況
事業ポートフォリオ強化	今期1Qより ・クラウドソリューション事業 ・DXソリューション事業 に報告セグメントを変更予定
エンジニア採用	エンジニア採用の体制を見直し、採用活動を開始 社内選抜メンバーにエンジニア人材育成プログラムを開始
M&A戦略	経営企画室のM&Aアクション進捗状況 案件ソーシング : 約210件 デューデリジェンス : 5件 クロージング : 2件 M&A仲介企業約60社に当社買収ニーズ情報を共有し、リレーションを強化
財務戦略	上記戦略に必要な支援を得るため、M&A買収資金使途も見据え、メガバンクをはじめ金融機関各行との案件相談を開始

M&A戦略(M&Aの実行)

■ 株式会社クロノスのSMS事業の譲受

23年12月開示

10年以上のサービス提供実績を誇るショートメッセージ配信サービスの「i-Macss」および「OCTPASS」事業を当社にて譲り受ける運びとなりました。これまでの安定稼働、高品質なサービスを承継し、fonfunが提供してきた国内網のSMS配信だけでなく、国際網のSMS配信も提供可能となることで、さらなる顧客満足度の向上と取引の拡大が実現するものと見込んでおります。

■ ノーコードSaaS「ゼロワン」の譲受

24年3月開示

CRM領域で運営実績があり、LINE配信の機能部分などでSMSとのシナジーもあり、当社DXソリューションのサービス基盤の拡充を企図。クライアント業種として、カーディーラー、ホテル事業者、マンション管理、B2Cの販促、キャンペーンといった領域で、当社クラウドソリューションのSMS事業との相性も非常によく、クロスセル、アップセルを図り、事業の拡大を図ります。

財務戦略(行使条件付きSO発行)

新株予約権 行使条件サマリー

行使可能割合	時価総額達成条件	業績達成条件	行使期間
35%	時価総額 35億円 達成済	営業利益 1.2億円	5年間 当初2年間は行使不可
100%	時価総額 100億円 達成		

■ 代表取締役の役員報酬は0円

企業価値の向上こそが報酬となるとの考えのもと、当社代表取締役の金銭的な定額報酬は0円としております。新中期経営計画で掲げた2026年目標に加え、本新株予約権の行使条件である営業利益1.2億円の達成に向けて事業拡大を推進して参ります。

新中期経営計画(プロジェクトフェニックス)

プロジェクト フェニックス PROJECT PHOENIX

新中期経営計画「プロジェクトフェニックス」は
fonfunのコーポレートサイトに掲載しております。

<https://www.fonfun.co.jp/company/#plan>

代表者プロフィール

サイブリッジグループによるTOB 新経営陣による“fonfun”再成長の実現



代表取締役社長 兼 CEO

水口 翼

1982年生まれ東京都出身。2003年青山学院大学休学中に起業。2004年21歳で株式会社シンクマーク(現サイブリッジグループ)を設立。ソフトウェア開発事業、インターネットメディア事業、投資事業等を中心に様々な事業を展開。

約20年に渡ってグループ全体の経営を行う。投資先ベンチャー企業の社外役員等も歴任し企業経営全般への知見を有する。2015年よりfonfun社外取締役を務めTOB(株式公開買付)を経て代表取締役に就任。2023年現在、女5人男3人の8児の父。

経営陣プロフィール(常勤)



取締役 兼 DXソリューショングループ長

松井 都(経営・DX・M&A)

1989年(株)システムソフト入社、Apple Macintoshを日本展開する事業に携わる。1991年(株)ピーエー転籍。長野オリンピックや丸の内再開発において、地図のUIシステムを推進。企業の初サイト構築を多く手がけ、自動車メーカーの独自CMSや広辞苑デジタル版の開発を担当。2010年M&Aにより、現サイブリッジグループ(株)に転籍。大手企業向けのDX推進を行う。



取締役 兼 コーポレートソリューショングループ長

八田 修三(経営管理・システム)

京都大学理学部中退。1993年 日本インターシステムズ(株)に入社しシステム開発業務に従事。2002年 当社に入社、データベースエンジニアとして当社サービスを支える。開発制作部長やリモートメール事業部担当部長、システム部長などを歴任し、2011年より取締役として経営管理部を管掌、経理・財務・法務・労務、適時開示からM&Aまでバックオフィス業務を統括し、現在に至る。



取締役 兼 クラウドソリューショングループ長

小川 真輔(経営・IT・M&A・海外)

豪州シドニー出身、クイーンズランド工科大学卒業。2006年、富士通株式会社に入社し、金融系SI領域にて大規模システム開発のプロジェクトマネジメントに従事。2012年に、地方創生、ゲーム開発事業のDAS株式会社を創業。近年はバイ&セルサイドのM&A領域を実務とし、2019年、老舗出版社ベストセラーズの社長に就任し、立て直しと事業売却等の業務を執り行う。

経営陣プロフィール(社外)



社外取締役

緒方 健介(経営・M&A・海外・ファイナンス)

1995年 第一勧業銀行(現みずほ銀行) 入行、インスパイア、ベンチャーCFO(ソフトバンクグループ)を経て2006年 ビーエスエル(株)(現Oakキャピタル株式会社)入社 2012年 同社取締役就任、2014年 A.T.カーニー入社、2018年独立、Asia Accelerated Partners代表取締役。M&Aによる成長戦略立案やハンズオン投資、企業再生等を行う。ファイナンス修士。



社外取締役

小柳 肇(DX・RPA・会計・海外・広告)

東京大学法学部卒業。米国公認会計士(CPA)米国管理会計士(CMA)保有。株式会社電通に31年間勤務。RPA・AI・SAAS・BPO等による業務革新(7年間)、経営企画・予算・決算・経営管理・リスクマネジメント(10年間)、広告セールス・ブランディングコンサルタント(14年間)を経験。電通ビジネスプロセスマネジメント局 局長 兼 CoE推進室長として電通の「労働環境改革」を主導。サイバー・コミュニケーションズ代表取締役副社長など歴任



社外取締役

古久保 武紀(経営・M&A・海外)

1986年 株式会社伊勢丹(現株式会社三越伊勢丹入社)、ジェイアール西日本伊勢丹社外取締役、三越伊勢丹ホールディングス 経営企画グループ長、三越(現三越伊勢丹)経営企画部総合企画担当長、三越伊勢丹フードサービス管理本部長兼経営企画室長、三越伊勢丹海外事業部企画担当部長など国内外の要職を歴任。2018年から拠点を海外に移し、2022年日本企業のアジア進出支援コンサルティングのフィリピンコンサルティング設立。

会社概要

会社名 株式会社fonfun(フォンファン 英語表記 fonfun corporation)

代表者 代表取締役社長 水口 翼

資本金 100,000千円(2024年3月31日現在)

上場取引所 東京証券取引所 スタンダード市場 証券コード:2323

所在地 東京都渋谷区笹塚2-1-6 JMFビル笹塚01 6階

設立 1997年3月3日

従業員数 26名(2024年3月31日現在)

事業内容 DXソリューション事業(ソフトウェア開発事業)
クラウドソリューション事業(SaaS・プロダクト事業)

ウェブサイト <https://www.fonfun.co.jp/>

よくある質問と回答

Q 新中期経営計画(プロジェクトフェニックス)は、達成できますか？

A 既存事業の安定成長に加え、新規事業、並びにM&Aを通じて非連続な成長を図り、達成を目指します。

Q 東証スタンダード市場の上場維持基準に満たない状況になったら？

A 上場維持基準の達成は当社にとっての必達目標であります。時価総額100億円に向けて株価を意識した経営を実行いたします。

株価推移や流通株式時価総額の状況を踏まえ、必要な場合には引き続き当社株式の流通が可能な他の取引所への重複上場を検討します。

Q 株主還元策(配当政策)についてはどのように考えていますか？

A 当社は、過去の業績不振等による影響で法定の配当可能な条件を満たしておらず、現時点では配当や自社株買いを行う事は出来ません。

利益を確保し配当可能限度額をプラスとした上で、剰余金の分配等が可能な財務体質にする事を目指します。自己株式の消却についても検討します。

Q 単元未満株の株主が多いようですが、なぜでしょうか？

A 過去の株式併合の影響により単元未満株主が多い状況です。多くの株主が議決権行使可能となるよう買取推進や株式分割も検討します。

Q 国際会計基準(IFRS)への移行を考えていますか？

A 現時点では、国内投資家中心の株主構成である状況や、M&Aや経理・開示実務の機動性を担保することを考慮し、IFRSではなく

当面は、日本会計基準の採用を続ける予定です。

Q 新中期経営計画の「プロジェクトフェニックス」の由来は？

A 当社の社名fonfunの由来のひとつが「鳳凰」の中国語読みです。英訳するとフェニックスでありプロジェクト名として採用しました。

お知らせと免責

1

X(旧Twitter)

公式アカウント開設しました

リモートメールのお知らせアカウントとして利用していたXアカウントをfonfun公式アカウントとして運用開始しました。IRや事業のお知らせなどをお届けします。



@fonfun2323

2

次回の法定開示は6月4日(木曜日)予定です

定時株主総会の招集通知を開示予定です

Phoenix, fly high!



株主と共に飛躍する銘柄へ

【注意事項】本資料における、将来の予想については、当社が把握しうるかぎりの情報をもとにしておりますが、今後の環境の変化等により、予想と異なる結果になることがあります。本資料をもとに意思決定を行った結果について、当社は一切の責任を負いません。ご了承ください。